巻頭特集

郡上の米をブランドへ！

六の里棚田米の挑戦

棚田に描くイラスト田んぼで知られる白鳥町六ノ里。
山々に囲まれた集落と棚田は、水田の季節から、
黄金色の稲穂が実る収穫の時まで、心に残る風景が四季折々に移ろいます。
急傾斜地にある大小の田んぼ合わせて21haの面積で作る
六ノ里の米は〝六の里棚田米〟として、
近年、各地の米コンテストでも優秀な成績を収めています。
米のブランド化に向けて力を合わせる、六ノ里の人々を紹介します。

田んぼアートをブランド米の広告塔に

先祖代々受け継がれてきた六ノ里の棚田。「里山の風景を将来へ伝えたい」という思いから、岐阜県で農業改良普及員を務めていた佐藤幸邦さんのリーダーシップのもと、２００８年に「六ノ里・棚田にじいろプロジェクト」が始まりました。

田んぼに絵を描くには、色の異なる稲を植えて行います。年毎に考えられたテーマに沿ってイラストを描き、イラストをもとに水田につなを張って、異なる品種の稲を植えます。初年度は、清流長良川をテーマにあまごを描きました。２０２１年はＪＡグループ「みんなのよい食プロジェクト」公式キャラクター〝笑味ちゃん〟を描きＳＤＧｓをよびかけます。

田んぼアート作りは、地域の人々と、体験活動に応募した50人ほどの参加者で行ってきました。参加者は、田植え、草刈り、田鯉つかみ、稲刈りを体験。年４回、都市部から六ノ里を訪れ、田仕事の後には、季節の地元グルメを味わい、水田を利用した「どろんこあそび」などのレクリエーションを楽しんできました。「棚田にじいろプロジェクトによって、人々の交流が生まれました」と佐藤さんは話します。昨年から新型コロナウイルス感染予防のため、体験者の応募を止め、地域の人々の力で継続しました。「ぎふの田舎応援隊の手を借りられたことで助けられました」と佐藤さんは感謝します。

「ぎふの田舎応援隊」は、岐阜県が２０１７年度に始めたプロジェクトで、ボランティアを前提に、人手が足りていない県内各地にスタッフを紹介するというもの。今年の棚田にじいろプロジェクトには、９人の応援隊が訪れ、斜面の草刈りや田んぼアートの草取りを行いました。

「田んぼアートはいつでも気軽に見ていただけます。心やすらぐ風景をお楽しみください。この機会に六ノ里の米も味わってください」と佐藤さんは力を込めます。

六ノ里をブランド米の生産地に変える

「六の里棚田米生産組合」ができたのは２００９年のこと。「この先、若い者が少なくなる六ノ里をなんとかするには今しかない。米で六ノ里を盛り上げられないか」と、組合長の集山政治さんは、当時自治会長の和田允男さんや仲間とともに組合を設立しました。イラスト田んぼを主導する佐藤さんが米作り講習を行い、これまで農家がそれぞれに作っていた米を、コシヒカリに統一し、地域としての米作りをはじめました。

12人の会員から始まった組合は、現在20人の会員で全体の約半数の農地を管理しています。「獣害の温床となる耕作放棄地を減らすのが第一の仕事でした」と集山さんは当時を振り返ります。

六の里棚田米を生産するには、多くのハードルがあります。第一に土壌の条件を揃えること。田んぼは場所によって日当たりなどの環境が異なるため、同じような土壌にするには、田んぼごとにデータを取り、施肥の量などを調整しています。「毎年米作りをしても、これで良しという段階には到達していません」と集山さんは、米と土壌づくりの難しさを話します。

米のおいしさは、食味値によって表すことができます。ブランド米は、食味値で80点以上の農家がほとんど。高い農家は93点といった高得点を出します。

「肥料が多い土で育った稲は、米が多く穫れますがパサつきます。甘味や粘りのある米を作るには牛糞や鶏糞を使った有機農法による土づくりが大切。米の粒がどうしても小さくなるのが課題です」と集山さんは続けます。

農家のほとんどは兼業のため手間不足の問題もあります。獣害から農地を守る取り組みも必要です。六ノ里には、農家とともに猟師に従事する人が多く、50代以下の若い世代でも銃猟や罠猟にて有害獣を捕獲しています。多い人では年間で80頭以上の鹿や猪を捕獲。「こんだけ獲っても、鹿や猪は減らんのやでなー」と猟師でもある集山さんは笑います。

多数のコンテストで入賞する「六の里棚田米」

地域一丸となってブランド米の育成に取り組む六ノ里の人々の努力が実り、昨年は〝郡上おいしい米コンテスト〟で「六の里棚田米」は最優秀賞に選ばれました。今年も連続優勝を狙い出品予定です。

個人では、認定農業者の小松隆一さんが、第15回、第18回、第22回米の食味鑑定コンクール国際大会国際総合部門『特別優秀賞』受賞、大阪府民が選ぶ！「いっちゃんうまい米」コンテストで第４回は優良賞、第６回は総合最優秀賞を受賞しました。

「六の里棚田米生産組合」のさらなる活躍が期待されます。

2017年制作のイラスト田んぼ GJ8マン参上!!

六の里棚田米は市内
道の駅等で販売中
ラベルは手作りの芋判です!!

2008年よりイラスト田んぼを制作する
佐藤幸邦さん

六の里棚田米生産組合長
集山政治さん

第7回

「郡上おいしい米コンテスト」2021年11月14日開催

＼生産者の皆様へ／

郡上のお米は美味しいと言われますが、ご自身が作った米はいかがでしょうか。
食味計による分析では、食味値80点以上が「良食味」とされます。前回のコンテストでは平均が83.7点、最高点は91点でした。しかも、全体9割が80点以上です。
いかにおいしいお米か、数値でもわかりますね。
そんな郡上でお米を栽培しているあなたも、腕だめしにコンテストに参加してみませんか?

＼一般の皆様へ／

11月14日（日）の表彰式では、上位入賞者出品米の競売会やドローンによるスマート農業などの技術紹介を予定しており、出品者や米農家の皆さん以外の参加も可能です。
参加を希望される方は、下記への問い合わせ先に11月11日（木）までにご連絡ください。
※新型コロナの状況により内容を変更する場合がありますので、ご了承ください。

お問い合わせ
郡上市役所農務水産課 ☎0575-67-1838
郡上農林事務所農業普及課 ☎0575-67-9510

2021年のイラスト田んぼに
集う六ノ里の人々

文／天野宏美　デザイン／ABBEY ROAD